

「労働通貨」が「法的通貨」に取って代わるべきである

貨幣は何のために必要なのであろうか、何の役に立つのだろうか？法的通貨は富を集中し、労働を搾取し、大部分の人間を貧困にするための手段である。こうした通貨とは無期限、無記名の手形以外の何物でもない。実際の価値は何もないのだ。法によって定められ、支払いに通用するがために機能しているにすぎない。もし本当に価値があるのなら法などは必要がないはずである。商売の取引に使用されている法的通貨は 3%を下回っており、残りは全て金融オペレーションに使われている。

中央銀行が発行するドル、ユーロ、ポンド、円、その他の通貨は国家の負債を作り出すことにのみ役立っているであり、銀行を介して経済、金融、政治、文化、科学、情報をコントロールするごく一部の限られたエリートの権力に貢献するだけである。こうして、非常に良く組織された少数の者が世界を支配し、戦争を引き起こし、資源を奪い、人類全体の発展を左右する。政府、国際機関、国の官僚達、多国籍組織は全てこれらエリートに耳を傾け、言うことを聞く。

それでは、どうしたらこの状況を変えることができるのであろうか？元来、貨幣は商品象徴するために、商品そのものを表すものとして誕生した。今日の法的通貨は、法的通貨で購入できる商品を生産するのに必要な労働を表すにすぎず、いかなる価値も有してはいない。にもかかわらず、これが支払いに認められているのは無知によるからである。支払いに法的通貨を受け入れる者達が、実は法的通貨には何の価値もないこと、誰によって発行されているのか、誰がコントロールしているのかを知らないが故に成り立っている大きな「ペテン」、詐欺行為なのである。富を分配し、労働に適正な価値を与え、貧困を克服するための唯一の方法は、労働を表し、労働者のために発行される、真の価値を持つ通貨を採用することである。ダーナ/Dhana (www.dhana.org)はこの目的のために発行された。

労働通貨を普及させるにはどうしたらよいのであろうか？ダーナ/Dhana を効率的に普及させる唯一の方法は労働者達がダーナ/Dhana による支払いを求めることである。そうすれば企業は給料を支払うためにダーナ/Dhana を手に入れることを余儀なくされる。ダーナ/Dhana は個人にのみ与えられるため (一人当たり 100 Dhana)、企業がダーナ/Dhana を手に入れるためには商品やサービスをダーナ/Dhana で売るしかない。もし労働者達がダーナ/Dhana による支払いを求めれば、企業は月給を払うのに必要なダーナ/Dhana を手に入れるために商品やサービスをダーナ/Dhana で売らなくてはならない。簡単なことである。理解すればよいのだ。そして実行に移すこと！

ダーナ/Dhanaはドウラ/Dhura (www.dhura.org)によって発行される。ドウラ/Dhuraとは地球の住民により直接に選ばれた世界政府、地球共和国(www.asmad.org)の機関である。各ダーナ/Dhanaはプラチナ 1グラムに等しい実際の価値に裏付けされ、物理的貨幣、電子マネー、インターネット・マネーとして発行される。ダーナ/Dhanaの千分の一はカナ-ダーナ/Kana-Dhanaで、1、5、10、50、100 Dhana、及び 1、5、10、25、50、100、250 Kana-Dhanaの単位で発行される。16歳の年齢に達した地球の住民は誰でも 100 Dhanaを与えられる。受け取る際には発行にかかるコストを償還するか、(額は国民一人当たりの平均所得に応じ国によって異なる)、あるいは与えられた日から 5年以内に 1回、ないし数回にわたって 100時間の労働を提供する(1Dhanaに対し1時間の労働)という誓約をする。

さらに、5000億 Dhana(16歳以上の50億人に100 Dhanaづつ)以上は発行しないこととする。但し、人道的な目的にのみに使われる250億 Dhana(5%)は別枠とする。1000 Dhanaの貨幣単位が発行されるのはこのためである。発行に制限を設けることで価値が下がる現象は起こらず、時と共にその価値は増していく。発行されるダーナ/Dhanaは増加しないが、取引、従ってダーナ/Dhanaの需要は増えていくからダーナ/Dhanaの価値は上昇するしかないのである。この点もたやすく理解できるであろう。

ダーナ/Dhanaはホロス・グローバル・システム/Holos Global System (www.hgsp.org)が取ったイニシアチブの一つであり、人類のもっとも切実、かつ切迫した問題に取り組むための具体的なプログラムである。手遅れにならないように急がなければならない。

100 Dhanaを受け取るにはwww.dhana.orgにあるフォームを使用して頂きたい。